

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第2号(6月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に発生に注意》

- 【水稲】 **ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)**
- 【ぶどう】 **べと病**
- 【バラ科果樹】 **クビアカツヤカミキリ**
- 【野菜類・花き類】 **ハスモンヨトウ**

《6月の予報概要》

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
水稲			いもち病		
		縞葉枯病(ヒメビウンカ)			
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
ぶどう			灰色かび病		
			べと病		
			チャノキイロアザミウマ		
			クワゴマダラヒトリ		
もも				せん孔細菌病	
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			カイガラムシ類		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般		果樹カメムシ類			

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
			うどんこ病		
			アザミウマ類		
トマト			葉かび病・ すすかび病		
			灰色かび病		
				コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病 (TYLCV))	

D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類			シロイチモジヨトウ		
				ハスモンヨトウ	
			コナガ		
			アブラムシ類		

《(参考)6月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (40%)	多い (30%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(大阪管区气象台5月27日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 田植後の余り苗を水田に放置しない。 発生が予想される場合は、田植前に箱施用剤を処理する。
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	やや少ない～ 並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年11月の巡回調査では、ひこばえで成虫がほとんど確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 田植前までに水田、畦畔の除草を行う。 ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であるため、ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 密植を避けて通風を良好にするとともに、窒素質肥料の過用を避ける。

ジャンボタニシ (スクミリンゴ ガイ)	発生に注意	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 水深4 cm以下の浅水管理を行う。 桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。
---------------------------	-------	--

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
灰色かび病	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
べと病	並～やや多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 一部地域では、平年より早い発生が確認されている。 6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
チャノキイロアザミウマ	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
クワゴマダラヒトリ	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。 主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動し、ブドウの新梢や葉を食害する。 初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいので初期防除に努める。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 伝染源となる葉、枝、果実を除去し、適切に処分する。 薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前が効果的。 降雨前に袋かけを行い、雨滴による感染を防止する。 風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。

シンクイムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
---------	---	--

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・発生地域では、成虫対象の登録農薬を散布する。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に処分する。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。
カイガラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。

5 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ネギアザミウマの発生が平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にネギアザミウマがいちじくを加害する。 ・果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。 ・ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。 ・光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

6 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80% で日照不足が続くと発生する。 QoI 剤（アミスター、ストロビー）、SDHI 剤（アフェット）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布

		を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
--	--	--

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・すすかび病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 [注意すべき事項] ・日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。 ・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。
灰色かび病	並	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・6月の降水量、日照時間は平年並と予想されている。 [注意すべき事項] ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行う。 ・茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病 (TYLCV))	やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] ・吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。 ・ハウス栽培では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病(TYLCV)の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	並～やや多い	[予報の根拠] ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 [注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 特にジアミド系薬剤の連用を避ける。

ハスモンヨトウ	やや多い～ 多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病虫害防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailserVICEmousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約 15 件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)